

第 210 号 内容紹介

1, A・モジタバ師「イラン新最高指導者の初演説全文」

国営放送で読み上げられた。国民に団結を訴え、「殉教者の血の復讐」は最優先課題とし、ホルムズ海峡の閉鎖を継続、報復は完遂されるまで続く。米軍基地を利用した周辺国に対し閉鎖を強く要求している。

2, A・サイド「米・イスラエルによる侵略行為とイランの立場」

イランの国連駐在代表による声明。侵略にたいする正当な自衛権を発動して、賠償を負わせるまで防衛を続け、周辺国や加担国にも責任をとらせると、5項目にわたってイランの立場を包括的にのべている。

3, T・カステリオーネ「文明の運命を決するイランの戦争」

カルバラーで殉教したフセインの精神が現代イランに生き続けており、イランの抵抗は軍事力ではなく「屈服を拒む文化的・歴史的アイデンティティ」に根ざしている。グローバルサウスにとっても意味を問う珠玉論考。

4, M・ハドソン「地域の力学を変えるイランの挑戦」

イランは「米軍撤退・中東の脱ドル化・米軍駐留の終わり」を目指し、それが達成されるまで戦う覚悟。この戦争は、世界のエネルギー体制と米覇権の行方を決める歴史的転換点になりうる。左派国際経済学者の論考。

5, A・トルボルツエフ「イラン抵抗運動と世界史的な意義」

イランの抵抗は米国の世界的な覇権と新植民地主義的権力に対するより広範な闘争を反映しており、グローバルサウス諸国の主権を守る歴史的な反帝国主義運動の一環をなしている。

今号から各論文の冒頭に要旨を掲載した。その他の記事は「AALA ニュース編集日記」で参照できます ([aala news の編集日記 \(livedoonar.jp\)](https://aala-news.org/livedoonar.jp))

